♪Here Comes The Sun

皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第280号　2025年7月号

SINCE　2002.4.1.

発行日令和7年6月24日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL　046(865)4010
FAX　046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

Oppajimail

♪Now And Then「おっぱじメ～ル」その❹

平成13年に発行された「追浜ふるさと写真集」（追浜地域文化振興懇話会）の写真を現在、未来（再開発）と比較しつつ、戦争に翻弄されながら発展していった追浜の歴史を振り返ります。

— ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ —

写真には以下のような説明が添えてあります。

『**空からの追浜**　昭和30年頃。当時の追浜地域の航空写真です。まだまだ神応橋以東は海面埋立の面影が残されて、広大な空地が広がっていました。なかで野球場（昭和24年）のみが、すでに見えています。』

風光明媚なこの一帯が一変したのは社会情勢の変化「戦争」によるものでした。埋め立てによって広がった土地には軍事施設が建設されました。終戦後、これらの土地を活用し、工場地帯が形成され、追浜地区には新たな雇用が生まれ、人が移り住み、街が賑わいました。

新たな社会情勢の変化により街が一変してしまうのでしょうか。

（**すまい造りメール**第41号参照）

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20.
創刊 2002.4.1.
Next100

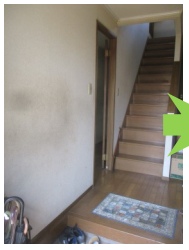
介護保険制度を利用した住宅改修工事を担当させていただきました。工事内容について説明させていただきます。

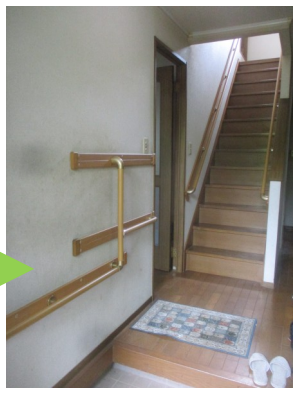
玄関と階段に手すりを設置する工事です。キッチンやトイレ、浴室が2階にもあり、日当たりも良いことから、2階で過ごすことが多い中、階段の昇降や玄関での靴の着脱時に掴まるところがないため、手すりを設置したいというご要望です。

「前略　おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

ハウスメーカーのプレハブ工法のため、下地を確保するために補強板を施工しました。

「玄関で靴を着脱する時は勿論、階段には両側に手すりが付いたので1～2階への移動も安心して行えます」というご感想をいただきました。





8月11日(月)13:00開演
みんなで楽しむコンサート2025
入場券1,000円
横須賀市文化会館大ホール

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォアー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。

ローカルニュース
地域情報

三浦半島周辺で開催されるイベントや地域情報等を紹介します。

◆みんなで楽しむコンサート

8月11日(月祝)に横須賀市文化会館大ホールで初めての方も、障がいのある方もみんなで一緒に楽しむ垣根のないクラシックコンサートが開催されます。

13:00開演（12:15開場）

楽しみ方の表現も感じることもみんなそれぞれ。みんなのやさしいあたたかな気持ちに包まれたコンサートです。

ピアノ　東誠三
箏　いぶくろ聖志
歌三味　棚原健太
舞　はんな
ソプラノ　松永知史

入場券は1,000円で、お買い求めはWEBまたは店頭販売（横須賀市文化会館･はまゆう会館･オクターヴ･信濃屋書店･逗子文化プラザほか）で。

尚、障害者手帳･療育手帳をお持ちの方（介護者1名も含む）･中学生以下のお子様は無料です。

新(旧)紙幣の偉人たち＜5＞

2024年7月3日に、1万円、5千円、千円の3券種が改刷されましたが、キャッシュレス決済の普及により、20年前と比較して新紙幣に入れ替わるスピード遅いようです。したがって、旧紙幣も活躍しています。

現在の千円札の肖像は北里柴三郎ですが、一つ前は野口英世でした。

福島県に生まれた野口清作は、幼いころに火傷を負い、その後知り合いの援助で受けた手術を経験したことから医学の道を志すようになりました。ナポレオンの生き方を信奉し、済生学舎に学び、医師免許を取得します。その後、北里柴三郎の伝染病研究所の助手補になり、自分の描く立身出世の階段を一つ一つ上っていきました。そのころ、坪内逍遥が書いた小説「一読三歎当世書生気質（いちどくさんたんとうせいしょせいかたぎ）」が話題になっていました。それまでの勧善懲悪を否定した、当時の学生風俗が写実的に描かれていて、その中の登場人物の一人に、野々口精作という、優秀な医学生でありながら酒と女におぼれて堕落していく青年が描かれていました。この小説を読んだ野口清作は改名を決意します。あまりにも自分との共通点が多く、モデルとして描かれたと世間の人に思われることを嫌ったのではないかとも言われています。新しい名前は、「英雄」と「世界」という将来の目標を掲げる言葉から、「英世」と自ら名付けました。

時々出会う野口英世の旧千円札を裏から透かして見ると、「もう一つの顔」が浮かんくるかもしれません。日本の近代医学に大きな足跡を残した二人の活躍はプライスレスです。「お金で買えない価値がある」

野口英世が勤務していた旧長濱検疫所の「一号停留所」が長浜から海の公園に移築・復元されました。（公開日は未定）　（参考資料「コンセント抜いたか（嵐山光三郎）」「国立印刷局～新しい日本銀行券特設サイト」）

よこすか近代遺産ミュージアム
ティボディエ邸
ミュージアムには、小屋組みを移設した実物展示のほか、日本近代化の礎となった横須賀製鉄所の歩みなどが展示されています。
9:00～17:00 年中無休
詳細につきましては施設にお問い合わせください。　☎046(822)9478

よこすか文学館　【115】

横須賀が登場する文芸作品（マンガも含む）や横須賀に縁のある文学者を紹介します。

佐藤さとる『わんぱく天国』（講談社文庫）

昭和10年代の、横須賀を舞台とした少年小説です。逸見小学校3年生のカオル（加藤馨）が主人公。逸見小学校の子どもは、「柿ノ谷（かきのやと）」と「西吉倉」という地域のグループに分かれて対立しており、それぞれガキ大将が統率しています。しかし、対抗意識を持ちつつも共同作業をしたり、一緒に遊んだりもします。めんこ、凧作り、一銭飛行機、母艦水雷など、昭和戦前期の安針塚周辺の少年たちの遊びが生き生きと描かれています。佐藤さとる（1928～2017）は横須賀生まれの児童文学者。1959年に自費出版された『だれも知らない小さな国』が、同年に講談社から出版され、毎日出版文化賞などを受賞しました。このファンタジー小説は、佐藤さとるの代表作であり、全6巻書き続けられることになる「コロボックル物語シリーズ」の第1作です。　（洗足学園中学高等学校教諭　中島正二）

「よこすか文学館」のシンボルマークは芥川龍之介の小説「蜜柑」が由来です
文学碑はその舞台となった踏切の近くの吉倉公園にあります

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「**すまい造りメール**」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2025」A-9歩ZONE版（永久保存版）を（Blog「Oppamap2025」より）ダウンロードすることができますので、是非ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068　神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010　FAX 046(865)6139

すまい造り　検索